

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

たつの市立龍野東中学校（兵庫県）【指定校】

## 【取組内容】 CBTとアダプティブラーニングを活用したつまずき早期発見と個別最適化された学びの実現【①】

**1 <CBTを活用した小範囲テストへの移行>**

従来の定期考査の課題を解決するため、小範囲でのテストを頻繁に実施する方針へ転換しました。その際、CBTを活用することで、採点・集計の自動化、即時フィードバック、問題の多様化といったメリットが得られると考えました。

**2 <アダプティブラーニング教材を活用した個別最適化された宿題>**

CBTによる小テストの結果と連携できるアダプティブラーニング教材を導入し、生徒一人ひとりの習熟度に応じた宿題を提供するようにしました。この取り組みにより、生徒は自分のペースで、自分に必要な学習に集中できるようになりました。自分で宿題を選ぶという行為が、学習への主体性を育むことにもつながっています。また、アダプティブラーニング教材が、生徒一人ひとりのつまずきを解消し、理解を深めるためのサポートをすることで、学習効果の向上が見られました。

**3 <総合的な効果と生徒の変容>**

まず、つまずきの早期発見と、それに対する迅速な対応が可能になりました。また、CBTやアダプティブラーニング教材から得られるデータを活用することで、生徒一人ひとりの学習状況をより詳細に把握できるようになり、よりの確な指導ができるようになりました。

**4-1 <成果>**

つまずきの早期発見と、早期対応が可能になったこと。  
生徒の学習意欲、主体性が向上したこと。  
個別最適化された学習により、学力向上が見られたこと。  
教員の負担軽減と、指導の質の向上が実現したこと。

**4-2 <課題>**

CBTシステムの安定性、操作性に関する課題  
アダプティブラーニング教材の質、コンテンツ量に関する課題  
情報モラル教育、セキュリティ対策に関する課題  
家庭環境によるICT格差への対応

**5 <今後の展望>**

CBTとアダプティブラーニング教材のさらなる活用推進  
データ分析に基づいた、より効果的な指導方法の開発  
教員研修の充実、情報共有体制の強化  
家庭学習支援の充実

広いテスト範囲の定期考査から、範囲を狭め、単元のつまづきを減らす「ひがドラCheck!」について  
178件の回答

